

國學院大學学術情報リポジトリ

取り組みレポート

子どもの保健IIにおける保育技術の演習報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 竹村, 眞理 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00002089

子どもの保健Ⅱにおける保育技術の演習報告

竹村 真理

【要 旨】

子どもの保健Ⅱは保健計画立案が授業目的の一つである。保健計画立案のために、保育園で必要とされている年間の保健活動項目に関する知識の講義を行い乳幼児が必要とする保健活動をより具体的にイメージするために保育技術の演習を行った。保育技術の演習後の授業評価アンケートを行った結果、学生の多くが演習授業に満足し、演習したい技術項目を考えていることが分かった。学生の意欲を維持促進するために、あらかじめ授業開始時に、学生の希望する演習項目を調査するなどの工夫をすることが必要であることが示唆された。

【キーワード】

保健計画 子どもの健康教育 技術演習 保健行動 動機づけ

1. はじめに

「子どもの保健Ⅱ」は、保育園・幼稚園における保健計画の立案を目的に授業を展開する2年生開講の演習科目である。本学子ども支援学科の学生は全員が、この時期あるいはこの時期までに保育園・幼稚園の日常の保育・教育を体験しているわけではない。保育園等の年間の保育課程を体験していない学生が、1年間の保育園・幼稚園の保育士の活動をイメージし、保健計画を立案することは困難であると考ええる。

そこで、全国保育園保健師看護師連絡会2011から保健計画の実例と、インターネットから検索した数例の保健計画を情報提供している。しかし保健計画の年間目標を達成するためにどのように具体的に指導をするかということを考える十分な教材にはならない。そこで、保健計画の中で学生個々が関心をもった内容について、もし子どもの父兄に対して指導する場合、どの様に計画するかについても課題とした。このためには、15コマの授業の前半で子どもの世話をするための技術を演習する必要があると考える。

「子どもの保健Ⅱ」では、昨年度および今年度、子どもの日常生活の世話をするための技術をベビーモデル人形を用いて演習した。子どもの成長発達に伴う生理解剖学的な変化を根拠とした技術として演習要項を作成した。昨年度の演習後の調査の結果、学生に対して演習内容について事前の周知ができていなかったことが課題となった。そこで今年度は、授業開始時のガイダンスで演習について説明をし、更に演習の一週間ないしは数日前に演習計画を配布する様にした。本報告では、今年度の演習についてのアンケート結果を報告し、現在進行中の今年度後半の授業での補完と次年度の科目展開について簡単に考察する。

2. 方法

- 1) 期間：平成27年9月25日～10月23日
- 2) 対象者：子ども支援学科2学年生104名、1クラス50～54名
- 3) 演習項目および演習方法

演習は1週間に各クラス1コマで3週（A,B,Cと記す）実施、講義室および実験実習室を使用。

演習A…＜演習要項配付＞演習要項は、当日配付。

＜演習項目＞「抱っこ」、「おむつ交換」

＜演習方法＞ベビーモデル人形15体、学生50～54名をさらに25～27名に分け45分ずつ前半・後半組とする。

前半組が実験実習室で演習中に、後半組は講義室で、「抱っこ」「おむつ交換」「衣類の着せ方」の技術の応用編になる「沐浴の方法」のDVDを視聴。視聴記録提出を課す。

実験実習室での演習は、45分間中20分間の講義・教員によるデモンストレーションを行い、25分間の演習を行う。45分経過後、前半・後半組は場所を交代する。時間終了時、各々の場所で、解散。

演習B…＜演習要項配付＞演習3日前に、事務室に配布を依頼した。学生には配布をメールで周知したが1/3の学生はとりにこなかった。

＜演習項目＞「救急蘇生(救急蘇生のABC:気道の確保の体位、肩枕の使用、気道の異物除去法、脈拍の蝕知、成長発達段階別の心臓マッサージの位置および方法)」

＜演習方法＞50～54人一斉講義・教員によるデモンストレーション45分。後半45分を演習。演習場所は、講義室。机を処置台にみたく、学生3～4人を1グループとし、ベビーモデル人形1体使用。「脈拍の蝕知」は、学生自身およびお互いの脈拍測定を演習する。

演習C…＜演習要項の配布＞演習の要点を当日、講義で説明、後日、資料にして配布。

＜演習項目＞「包帯法（巻軸包帯および三角巾の使用）」

＜演習方法＞50～54人一斉講義・教員による説明およびデモンストレーション45分。後半45分を演習。学生2人で組み、お互いに演習する。

3. 各演習後のアンケート方法と結果

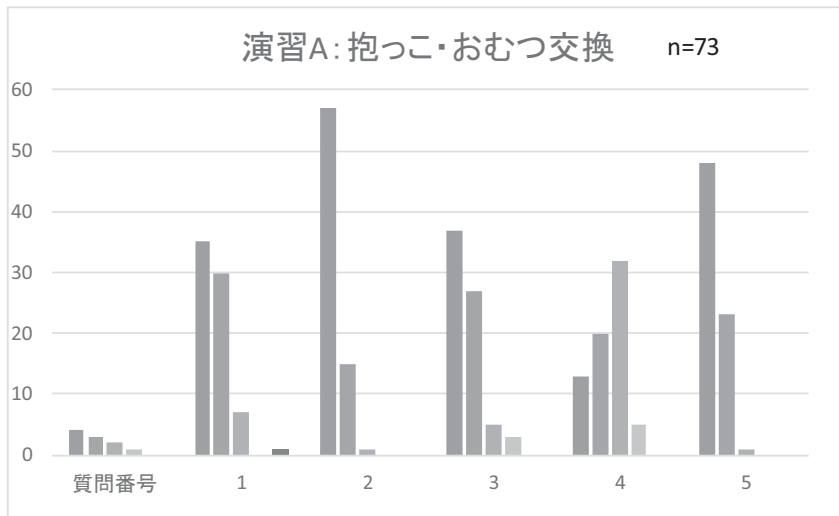
(1) アンケート方法：各演習終了後、成績には関係なく今後の演習授業改善の資料にすることを説明し、無記名で104名にアンケート5項目の記載を依頼した。

退室時に講義室入口の机に提出場所を設定し、自由提出とした。

(2) 回収率は、演習A 67.2%、演習B 66.6%、演習C 64.4%

(3) アンケート結果

<演習A：抱っこ・おむつ交換>



各質問番号のグラフ左から「十分であった」「まあ十分」「やや不足」「不足」「無回答」

質問番号1：演習内容についての講義

質問番号2：教員の演習準備について

質問番号3：当日の演習項目の周知

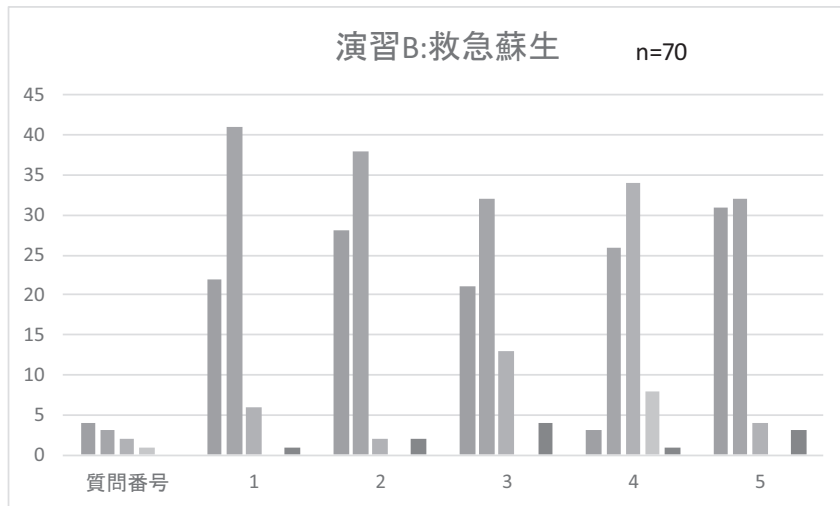
質問番号4：当日の演習項目についての予習

質問番号5：教員のデモンストレーション・説明等

- ①教員の演習準備とデモンストレーション・説明等に半数以上の学生が「十分であった」と回答している。
- ②演習内容・当日の演習項目の周知についても半数以上が「まあ十分」以上と回答しているが、数人の学生に当日の実習項目の周知ができなかったことと、問4にあるように学生の半数が予習できていない。
- ③自由記載の抜粋：・実習に行った時に役に立ちそうだ。痙攣の対応を演習したい。
・講義中に実演をしてほしい。もっと何回も演習したい。
・デモンストレーションをしてほしい。沐浴の演習がしたい。

- ・赤ちゃんの日常生活の世話で当たり前のことでも演習したい。
- ・前もって資料が欲しい。
- ・食事・排気のしかた・あやし方・沐浴を演習したい
- ・もっと教員にみてほしい。人が取り囲むので声が聞こえにくい。

＜演習B：救急蘇生＞



各質問番号のグラフ左から「十分であった」「まあ十分」「やや不足」「不足」「無回答」

質問番号 1：演習内容についての講義

質問番号 2：教員の演習準備について

質問番号 3：当日の演習項目の周知

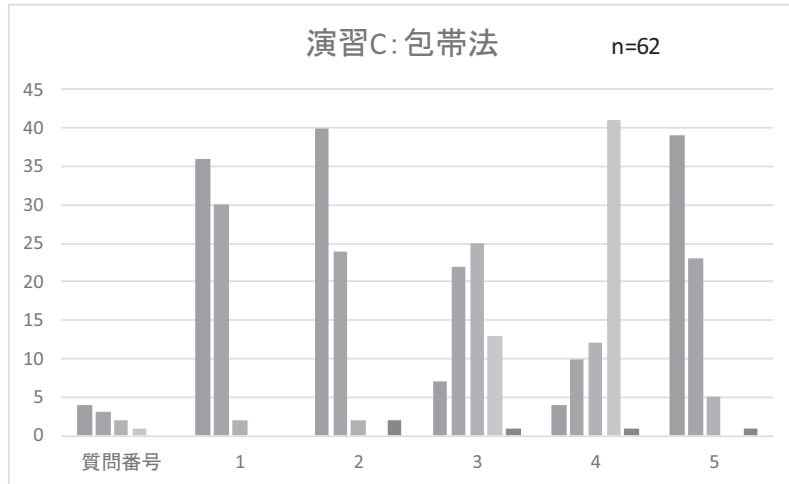
質問番号 4：当日の演習項目についての予習

質問番号 5：教員のデモンストレーション・説明等

- ①演習内容についての講義・教員の準備については、概ね回答者全員が「まあ十分」以上に回答しており満足していた。
- ②当日の演習項目についての予習は「まあ十分」と「やや不足」に約半々に分かれていた。
- ③自由記載の抜粋：
 - ・デモンストレーションを詳しく見たい。
 - ・演習をもっとやりたい。
 - ・資料で確認できた。
 - ・前に人がいると見えにくい。よく見たい。
 - ・けいれん発作時の対応、沐浴のVTRを再度見たい。

- ・資料で確認できた。

<演習C:包帯法>



各質問番号のグラフ左から「十分であった」「まあ十分」「やや不足」「不足」「無回答」

質問番号 1 : 演習内容についての講義

質問番号 2 : 教員の演習準備について

質問番号 3 : 当日の演習項目の周知

質問番号 4 : 当日の演習項目についての予習

質問番号 5 : 教員のデモンストレーション・説明等

- ①演習内容についての講義、教員の演習準備、教員のデモンストレーションについては概ね「まあ十分」以上であった。
- ②当日の演習項目の周知は、「まあ十分」以上と「やや不足」以下に、回答者が概ね二分された。演習項目の予習については半数以上が「不足」と回答した。
- ③自由記載の抜粋：
 - ・資料が欲しい。
 - ・三角巾の使い方を初めて知った。
 - ・後ろにも見えるように板書およびデモンストレーションをしてほしい。
 - ・三角巾を丁寧に教えてほしい。包帯の巻き方がわからない。
 - ・AEDの使用を演習したい。

4. 考察

アンケートの結果から配布資料・演習の方法について次のように考察した。

(1) 配布資料について

演習Aの演習要項は、演習項目ではない乳幼児の日常生活の世話（「衣類の着脱」「睡眠の導入」など）についても記載し、配布した。演習しない世話についても資料にした理由は、演習する技術項目が乳幼児の日常生活の世話の複数の技術に関連していくからである。「抱っこ」を例にとると、「授乳」のために「抱っこ」し、「睡眠の導入」のためにも「抱っこ」をする。また、「おむつ交換」が終わった後に乳児を抱き上げることが、乳児にとってもより快の刺激になるために重要であると考え。演習授業が、技術の方法を学ぶだけに終わらず、技術のもつ本来の目的についても理解できるものにしたいと考えている。

今年度は、教員が主体で演習項目を設定した。乳児の成長発達のポイントである定額に関連した「抱っこ」の種類の判断、関節脱臼防止を念頭に入れた「おむつ交換」を重点的に指導した。

学生は演習を実施項目以外に「沐浴」や「食事の世話」についての技術の演習を希望していることをアンケートの自由記載に書いている。教員が演習項目を絞ることも重要であるが、学生の希望を取り入れることが、学生の主体的な学習を促進につながるのではないかと考える。「赤ちゃんの日常生活の世話で当たり前のことでも演習したい。」との記載があるように、なるべく多くの世話の方法を演習する必要がある。

演習Aは、授業ガイダンスでも知らせているが、前週の授業の終わりに口頭で再度説明した。資料は当日の配布であったが、第一回目の演習であったため期待感もあったと考えられる。そのため周知や予習については評価が高い。演習要項を前もって配布した演習Bにおいては、取り忘れの学生がいたが、前もって予習している。このことから、前週の時間に配布しておくこと、また演習の事前課題を設けておく等の工夫をすれば、学生の興味関心と学習意欲の喚起につながることを示唆された。

演習Cは、応急処置の技術の一環として行った。包帯の巻き方の方法にとどまらず、使用目的、合併症の予防について生理学的な講義を行った。しかし、解剖生理学についての知識が定着していない学生側を考えて、資料として循環系の資料を用意する必要があった。

(2) 演習の方法について

どの演習においても、自由記載に演習への意欲が記載されている。学生の意見を、演習前に調査し演習を組むことが、学生参加の意欲喚起につながることを示唆された。

昨年度はベビーモデル人形の数が7～8体であったため、学生5～6人に対して1体という使用であった。ベビーモデル人形を割りあてられないことで演習に参加していない学生が散見されたが、今年度は新購入したモデル人形も加えて15体で演習したため演習に不参加の学生はいなかった。

アンケートの自由記載には、実際の赤ちゃんは、動いて世話がしにくい人形だからできるのではないかという記載があったが、学生にはシュミレータでの演習の限界を最

初に説明し、演習目的を明確に示すことが必要であった。

「もっと教員にみてほしい。人が取り囲むので声が聞こえにくい。」「デモンストレーションを詳しく見たい。」などの自由記載から教員一人で行う演習時間の構成については、今後検討の余地があることが、示唆された。